



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2020年  
No.12  
事例1

疑義照会・処方医への情報提供

## 用法



### 事例

#### 【事例の詳細】

患者に、レルミナ錠40mg 1日1回1錠 昼食後が処方された。添付文書より食後投与は絶食下投与と比較して $C_{max}$ および $AUC_{120}$ が低下することを確認した。また、患者から初回投与であることを聴取したが、服用開始日の指示がなかった。処方医へ疑義照会を行った結果、用法が昼食前に変更になり、月経周期1～5日目より服用を開始するよう指示を受けた。

#### 【推定される要因】

未記載

#### 【薬局での取り組み】

食事の影響を受ける薬剤の用法に注意する。新しい薬剤を採用した際は、薬局内で薬剤に関する情報を共有する。



### その他の情報

レルミナ錠40mgの添付文書（一部抜粋）

#### 【用法・用量】

通常、成人にはレルゴリクスとして40mgを1日1回食前に経口投与する。なお、初回投与は月経周期1～5日目に行う。

<用法・用量に関連する使用上の注意>

(1) 治療に際しては妊娠していないことを確認し、必ず月経周期1～5日目より投与を開始すること。また、治療期間中は非ホルモン性の避妊をさせること。

#### 【薬物動態】

2. 吸収

(1) 食事の影響

閉経前健康成人女性（12例）に朝食絶食下、朝食前又は朝食後に本剤40mgを単回経口投与した時、朝食後投与では朝食絶食下投与と比較して、 $C_{max}$ 及び $AUC_{120}$ の幾何平均値の比はそれぞれ45.43%及び52.56%であり、顕著に低かった。



### 事例のポイント

- レルミナ錠40mgは2019年3月に販売開始されたゴナドトロピン放出ホルモン（GnRH）アンタゴニスト製剤で、子宮筋腫による過多月経、下腹痛、腰痛、貧血の諸症状を改善する薬剤である。
- 本事業に報告されたレルミナ錠40mgに関する事例は、用法について疑義照会を行い、食後から食前に用法変更になった事例が大半を占めている。
- レルミナ錠40mgは食事の影響を受ける薬剤である。有効な薬物療法を行うためには、患者が薬剤の特性を理解し、決められた用法を守りながら治療を継続する必要がある。薬剤を初回交付する際は、食習慣等の患者背景を聴取したうえで、患者に適切な説明を行うことが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。